

みなと MIO MACH ケンチクさんぽ vol.25

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

波止場さんぽ 中突堤～メリケンパーク

中突堤西側、かつての国産埠頭を埋立てて建てられた中突堤中央ターミナル(1998)と国道2号線の間に昔の埠頭の雰囲気そのままに旧防波堤と国産倉庫等が陸地に取り囲まれて残っています。数年前までは“波止場町TEN×TEN”として文化的な利用もありましたが、現在はSOHOの事務所等でひっそりと使われているだけのような状況になっています。



倉庫群の片隅にはハローワークの労働出張所があり「何故こんなところにハローワークが?」と思いながら旧防波堤に設置された銘板写真を見ると1960年代この場所に職業安定所があり、港湾関係の労働者で相当に賑わっていた様子が伺えました。ハローワークはそんな歴史の名残りで残ってきたのかも知れません。



ハローワーク神戸港労働出張所



1960年代職安前に集まる労働者



中突堤中央ビル(上写真) 2階飲食店街 (下写真)



海洋博物館と改修工事中のポートタワー

メリケンパークの東端部にフィッシュダンス(1987)があります。スペイン・ビルバオのグッゲンハイム美術館の設計者として著名なフランク・O・ゲーリー氏の設計で、安藤忠雄氏の監修によります。



フィッシュダンス

金網で表現された巨大な魚が跳ねるような様子が特徴的ですが、そこに隠れたメッセージがあることは完成から35年経つ現在まで知りませんでした。

港めぐりの遊覧船が発着する中突堤中央ターミナルの隣には、中突堤中央ビル(南館1962・北館1973)があります。

かつては中突堤から淡路島行き的高速艇が定期就航されていました。私は淡路島・洲本市の出身で、この高速艇は子供の頃からよく利用していました。

中学生の頃、当時開催されていたポートピア81に、友達と何度か行きました。子供達だけで、田舎の淡路島から華やかな神戸の街にでるのは、ちょっとした冒険でした。

「お金を無くさないだろうか…」と道に迷わないだろうか…」と緊張と不安そして期待が交錯する中で、この中突堤は冒険のスタート地点であり、おとな社会への入口のような場所でした。その後、高校生の頃は模試のために神戸に出て、試験後帰りには元町商店街の海文堂書店で参考書を漁り、高速艇の待合室で吉野家の牛丼を食べて帰るのが定番でした。

現在、その思い出の中突堤中央ビルは、南館はモザイク～メリケンパーク間の再整備計画の中で解体工事中のもの北館は計画からも外れているようで国産倉庫群周辺と同じくボツンと取り残されてしまったように存在しています。たくさんのお店とお客で賑わっていた2階の飲食店街もすっかり寂しくなっています。

港町神戸を代表する特徴的なモニュメントであるポートタワー(1963、現在全面改修工事中で2024完成予定)は上に回転展望喫茶室があって、中央のエレベーターを降りて、ゆっくりゆっくり回り続ける喫茶フロアの床に飛び移り、席に座ったままで移り変わる景色を眺めながらジュースを飲んだことも微かに覚えています。

メリケンパークの名称は、この地がかつて神戸港開港当時から「メリケン波止場」と呼ばれていたことに由来します。「メリケン」は漢字で「米利堅」とも書きますが、これは当て字で「アメリカン American」のネイティブな発音を日本人が「メリケン」と聞き取ったことに由来するもので、小麦粉のメリケン粉も同じ語源と言われています。

かつては埠頭からの海釣りが楽しめたというメリケン波止場も1983年からの港湾埋立てとともにメリケンパーク(1987)として生まれ変わり、ポートタワーとともに神戸海洋博物館やホテルオークラなど神戸を代表するランドマークとなるような建物、神戸港震災メモリアルパーク、噴水広場、西日本最大級のスターバックスや“BE KOBE”のモニュメントなどインスタ映えするポイントが数多く点在する活気ある都市型海浜公園として整備されています。

巨大な魚の正体は“鯉”で、なぜ海辺で淡水魚の鯉?と思いましたが、この場所が鯉川筋の突当りに位置し、かつての鯉川の川尻に位置することに由来して、鯉が跳ねおどる姿がモチーフになっているそうです。(ちなみに鯉川筋の由来も、かつての鯉川という川を暗渠化して道路にしたことによります)

高さ22mのモニュメントは、全体を亜鉛メッキ製の金網で覆われていて、完成後まもなくから海辺の潮風による塩害被害から赤錆の発生が問題となり、すぐに劣化が進み撤去されてしまうかも…と危惧していましたが、建物管理者の努力で今もメリケンパークの特徴的なモニュメントとして維持され続けています。

このフィッシュダンスは、ちょうど私が大学生の頃の完成で、当時は女の子を誘ってフィッシュダンスまで神戸デートするのが憧れでした。結局、憧れのままに終わってしまいましたが…

新しい発見や期待感、そして懐かしさとともにノスタルジックな気分が交錯する波止場さんぽとなりました。



栄 宏之(さかえ ひろゆき)

建築設計工房・栄(Sakae)/代表
一級建築士/防災士/インテリアコーディネーター
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会/副地域会長
兵庫県建築士会淡路支部/支部長